

HPDU Competition 2024



第13回 日本高校生 パラメンタリー ディベート連盟杯

2024年3月22日(金)～26日(日)
[会場]国立オリンピック記念青少年総合センター



HPDU
OF JAPAN

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟(HPDU of Japan)
後援：文部科学省(Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)
ブリティッシュ・カウンシル (British Council)
カナダ大使館(The Embassy of Canada to Japan)
一般社団法人 日本英語交流連盟 (The English-Speaking Union of Japan)
特別協賛：有限責任 あずさ監査法人 (KPMG AZSA LLC)
協賛：公益財団法人 日本英語検定協会 (Eiken Foundation of Japan)
iaeグローバルジャパン株式会社 (iae GLOBAL Japan, Inc)
株式会社トモノカイ (Tomonokai Co.,Ltd.)
メディアパートナー：読売新聞社 (THE YOMIURI SHIMBUN)
協力：エイムネクスト株式会社 (AIMNEXT Inc)
キヤノン株式会社 (CANON INC.)
キヤノンマーケティングジャパン株式会社 (Canon Marketing Japan Inc.)
公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 (Japan Philharmonic Orchestra)

CONTENTS:

関係団体	1
ご挨拶	2
大会役員名簿.....	4
各教育奨励賞.....	5
大会概要	6
大会参加にあたっての注意事項.....	8
出場校	9
大会日程・施設案内.....	11
試合会場・平面図.....	13
決勝トーナメント表 (Main).....	16
決勝トーナメント表 (Tournament 2).....	18
試合形式	21
大会ルール	22
過去の大会の記録.....	24
HPDU 杯都道府県大会 推奨論題リスト.....	28
[宿泊施設より]シーツ・枕カバーのたたみ方・返却について.....	29
第13回 HPDU 新緑杯・第5回新芽杯 実施要項	30
第7回 中学生大会の実施について	31
第14回 HPDU 連盟杯 (2025) 参加の手順.....	32
模擬 G20 Summit 2024 実施について	33
大会要項	34

協賛・協力団体掲載ページ

一般社団法人 日本英語交流連盟	14
公益財団法人 日本英語検定協会	15
iae グローバルジャパン株式会社	17
株式会社 トモノカイ	19, 20
有限責任 あずさ監査法人.....	(裏表紙)

◆ 関係団体 – Organizers & Supporting Organizations –

主催 : 一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟 (HPDU of Japan)

後援 : 文部科学省 (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)

ブリティッシュ・カウンシル (British Council)

カナダ大使館 (Embassy of Canada to Japan)

一般社団法人 日本英語交流連盟 (The English-Speaking Union of Japan)

特別協賛 : 有限責任 あずさ監査法人 (KPMG AZSA LLC)

協賛 : 公益財団法人 日本英語検定協会 (Eiken Foundation of Japan)

iae グローバルジャパン株式会社 (iae GLOBAL Japan, Inc)

株式会社トモノカイ (Tomonokai Co.,Ltd.)

メディアパートナー : 読売新聞社 (THE YOMIURI SHIMBUN)

協力 : エイムネクスト株式会社 (AIMNEXT Inc)

キヤノン株式会社 (CANON INC.)

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 (Canon Marketing Japan Inc.)

公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 (Japan Philharmonic Orchestra)

Message from



Ryuji KITAHARA

Chief Director of High School Parliamentary Debate Union of Japan
一般社団法人日本高校生パーラメンタリーディベート連盟 理事長 北原隆志

Welcome to the 13th HPDU Competition, the most prestigious national parliamentary debate championship for high school students.

Now, I am filled with gratitude. This big competition relies on the support of so many people. While I was very worried that we would be short of judges since this competition is on the same day as the college student tournament, we now have a group of great judges. As you may notice, the entry fee including the accommodation fee is very low compared to other national debate competitions since HPDU staff and judges work for free, except for travel expenses. Most of their travel expenses, as well as all venue rental fees, half the cost of lodging and meals, and various other necessary expenses are covered by supporting organizations. HPDU staff, judges, and supporting organizations, have only one desire: that talented and passionate high school debaters like you can grow through this competition and contribute to solving problems surrounding our global society in the future.

Therefore, I would like you all to imagine that you are speaking at a real congress, and I would like you to make your speeches with the real intention of solving these problems with your own ideas. As you may know, Parliamentary Debate was created by British university students who wanted to become politicians and make speeches that would win hearts and minds of the general public. I hope that you will all speak with the intention of making your ideas fully understood by everyone in that hall. Of course, don't forget to have fun. Good luck.



Message from
Naoji YUI

Former President, Eiken Foundation of Japan
Auditor of High School Parliamentary Debate Union of Japan
公益財団法人 日本英語検定協会 元会長 油井 直次
一般社団法人日本高校生パラメンタリーディベート連盟 監事

In 2016 the voting age was lowered from 20 to 18 marking a historic change in Japan's electoral system. Your responsibilities have increased and your voices count more than ever in shaping Japan's future. Debating skills will play an important role in helping you to analyze and decide which candidate or party you wish to support by carefully judging their arguments. You will need to think critically. Debating various kinds of motions will help you develop such skills.

The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology is including debating in Japanese high school English courses to nurture young people who are capable of actively communicating on the global stage. Studying a wide range of topics is essential and debating about them will undoubtedly enhance your English communication skills. We hope that the experiences you acquire through these debates will broaden your perspectives and enable you to be active members of the global community.



Message from
SUZUKI Yoichi

Chairman, The English-Speaking Union of Japan
Former Japanese Ambassador to France
Visiting Professor Chubu Univ.
一般社団法人日本英語交流連盟 会長 鈴木庸一
元駐フランス大使、中部大学客員教授

On behalf of the ESUJ, I extend my heartfelt congratulation to the HPDU on the occasion of the 13th HPDU Competition. The ESUJ has been working closely for many years with the HPDU to promote the art of Parliamentary Debate in Japan. We will continue to support the HPDU through our rich activities on parliamentary debate as you can see from the information provided on our page in this leaflet. We want to promote parliamentary debate in casual ways. I invite you to join them.

In today's world where we unfortunately witness the weakening of democratic values, the art of Parliamentary Debate is becoming all the more important. The art of parliamentary debate as I believe is to persuade people to accept your ideas through logical, objective and critical thinking. It is one of the fundamental tools of democracy. It is also a valuable skill for the young people as they prepare for their future.

I wish all the participants to the HPDU Competition a very fruitful and rewarding experience.

◆ 大会委員名簿 - Organizing Committee -

※ HPDUの大会は全てボランティアにより運営されています。

大会運営委員会	委員長	北原 隆志	渋谷教育学園渋谷中学高等学校教諭、HPDU 理事長、ESUJ 特別参与
	実行委員	小林 良裕	豊島岡女子学園中学高等学校教諭、東京学芸大学大学院連合学校教育 学研究科博士課程在籍、HPDU 理事、ESUJ 特別参与
		浜野 清澄	さいたま市立浦和高等学校教諭、HPDU 理事
		天海 揚介	OBOG 代表、HPDU 理事
		西崎 真広	帝京大学中学校・高等学校教諭、HPDU 理事
		須田 智之	筑波大学附属駒場中・高等学校教諭、HPDU 理事
		河野 周	聖光学院中学校高等学校教諭、HPDU 理事、ESUJ 特別参与
		土屋 紀子	渋谷教育学園渋谷中学高等学校講師
		Melvin Lai	東洋英和女学院 教諭
	監事	油井 直次	元公益財団法人 日本英語検定協会 会長
顧問	名誉顧問	明石 康	公益財団法人 国立京都国際会館 理事長 一般社団法人 日本英語交流連盟 (ESUJ) 元副会長 元国連事務次長
	名誉顧問	沼田 貞昭	一般社団法人 日本英語交流連盟 (ESUJ) 名誉会長 元駐カナダ大使
	顧問	加藤 一郎	千葉大学客員教授, 元全農代表理事専務
	顧問	新庄 一郎	弁護士, 元検察庁検事正
	顧問	酒井 弘行	公認会計士, 元 KPMG ジャパン 日本代表, 元あずさ監査法人理事長
	顧問	下野 雅承	元日本 IBM 社長
	顧問	讃井 暢子	元一般社団法人 日本経済団体連合会常務理事
	大会主顧問	岡田 真樹子	一般社団法人 日本英語交流連盟 (ESUJ) 常務理事 元山梨英和大学 人間文化学部人間文化学科 教授
	大会特別顧問	綾部 功	東海大学 文学部英語文化コミュニケーション学科 教授、ESUJ 理事
	大会特別顧問	中川 智皓	大阪府立大学 工学研究科 機械工学分野 准教授、PDA 代表
HPDU 西日本代表		西山 哲郎	静岡聖光学院中学校・高等学校校長補佐
四国・九州代表		加藤 彰	九州大学 非常勤講師 / 学術研究者
チーフコーチ		小野 暢思	国内外の各種パラメンタリーディベート大会で優勝 35 回、ベ ストスピーカー賞 28 回、2015 年パラメンタリーディベート世界 大会 (World Universities Debating Championship) ESL 部門 Quarter Finalist、EFL 部門 4th Best Speaker]

各教育奨励賞

◆ 文部科学大臣賞

文部科学大臣賞は、日本国内において様々な分野で顕著な活躍或いは成果を挙げた個人又は団体に対し、文部科学大臣の名により授与する賞です。本大会では優勝チームの各個人に授与します。

◆ あずさ監査法人賞

参加者全員にパラメンタリーディベート練習用テキスト（HPDU 理事・小林良裕著）を贈呈します。本テキストは、後輩の指導の手助けとしても新年度以降ぜひ使って頂ければと思います。

本賞を提供して下さる有限責任 あずさ監査法人は、Inspire Confidence, Empower Change.（社会に信頼を、変革に力を）という基本理念を掲げており、HPDU の活動に賛同され、本賞だけではなく様々な支援をしてくださっています。

◆ 日本英語検定協会賞

ベストスピーカー賞第1位受賞者、決勝トーナメント出場校に図書カードを贈呈します。

◆ 日本フィルハーモニー交響楽団

上位4チームに日本フィルハーモニー交響楽団のコンサートチケットと音楽CDを贈呈します。

◆ キヤノン賞

優勝チームにキヤノンインスタントカメラプリンターiNSPiC ZV-223-PK とキヤノン用ZINK フォトペーパーを贈呈します。

◆ キヤノンマーケティングジャパン賞

準優勝チームにミニフォトプリンターiNSPiC PV-223 とキヤノン用ZINK フォトペーパーを贈呈します。

第 13 回 日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯
HPDU Competition 2024

□ 趣旨

全国の高校生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を養う。また、参加者間の交流を図り、共に学び合う関係を作る。

□ 日時・場所

- 1) 都道府県大会 2024 年 1 月～2 月中 ※場所は各地域で決定し実施する。
- 2) 全国大会予選 (48 チーム) 及び決勝トーナメント(予選上位 8 チーム)、並びにトーナメント 2 (予選 9 位～16 位のチーム)
期間： 2024 年 3 月 22 日 (金) 15:00 ～ 24 日 (日) 17:00
会場・宿泊施設： オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1
※3 月 22 日は、センター棟 417 に午後 3 時～3 時 20 分に集合

□ 内容

- 1) World Schools Debating Championships (WSDC) Style (但し本大会用に修正を加えたもの) による即興型英語ディベート大会。1 チーム 3 名、予選 4 試合 (2～4 試合目はパワーペアリング) による各チームの勝ち数と得点ポイントで順位を決め、上位 8 チームによる決勝トーナメント。またベスト 9～16 チームによるトーナメント 2 を実施する。
- 2) パラメンタリーディベートのスキル向上のためのワークショップ及びモデルディベート
- 3) 協賛企業による「今必要とされる人材」について等のプレゼンテーション

□ 参加資格

日本に住所がある高校に在学している学生(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)のうち、日本高校生パラメンタリーディベート連盟に公式認定された各都道府県大会に参加して出場権を獲得した高校の生徒、または本連盟より特別に出場権を与えられた者 (同一都道府県内の出場希望校が 1 校のみであった場合など)。同一校のチームの参加とする。ただし、英会話スクールなど高等学校以外の団体は例外とする。

□ 参加費

1 チームにつき 20,000 円 (選手及び引率者の大会中の食費と宿泊費を含む。)

- 各種教育奨励賞（実施状況により若干の変更の可能性があります）
- 1) 文部科学大臣賞：優勝チームに授与。
 - 2) あずさ監査法人賞：参加者全員にパラメンタリーディベート練習用テキストを贈呈。
 - 3) 日本英語検定協会賞：ベストスピーカー賞第1位受賞者、決勝トーナメント出場校に図書カードを贈呈します。
 - 4) 日本フィルハーモニー交響楽団賞：上位 4 チームにコンサートチケットと音楽 CD を贈呈。
 - 5) キヤノン賞：優勝チームにキヤノンインスタントカメラプリンター(iNSPiC ZV-223-PK) とキヤノン用 ZINK フォトペーパーを贈呈。
 - 6) キヤノンマーケティングジャパン賞：準優勝チームにミニフォトプリンターiNSPiC PV-223 とキヤノン用 ZINK フォトペーパーを贈呈します。

全国大会優勝校持ち回りの優勝カップ 「HPDU杯」について

2018年、都道府県大会が本格的に開催されたことを記念して、有限責任あずさ監査法人様が持ち回りの優勝カップを寄贈してくださいました。高校生によるパラメンタリーディベート国内大会の最高峰に立ったチームに授与されるにふさわしい素晴らしいカップです。

そこに皆さんの学校名が入ったペナントをしっかりと結ぶことを目指して、最高のパフォーマンスをして下さい。



◆ 大会参加にあたっての注意事項 – Notes for Participants –

- ① 当日は、顧問の方、もしくは保護者の方がご引率ください。
- ② 本大会では、他のパラメンタリーディベートの大会と同様、論題発表後の準備時間そして試合中にチームのパートナー以外の者と口頭、メモ、その他の電子的な手段で相談をすることを禁じます。
- ③ 相手チームの顧問の承諾なしに、他校の生徒のスピーチを録音、撮影、録画することは禁止です。
- ④ HPDUの記録担当が撮影したものに関しては、後日、HPDUのホームページ、後援・共催・協力団体への報告書、HPDUについての説明会や講演及び記事や書籍で使用することがあります。こちらに同意していただくことが、本大会の参加条件になっています。
- ⑤ 大会の様子は本大会のメディアパートナーである読売新聞社が取材し、同社の媒体で紹介される予定であり、写真撮影も行うことをご了承ください。読売新聞の記事に関してもHPDUの報告書などで使用することがあります。こちらに同意していただくことも本大会の参加条件となっています。その他、主催者が取材を許可したメディアについても同様です。ただし、大会そのものではなく、特定の参加校や個人の取材については、対戦校の顧問と選手の同意を要します。
- ⑥ 急な発熱などにより選手を変更せざるをえない場合は、開会式の開始までに連絡してください。代わりの選手が見つからず、2名以下での参加となってしまった場合は、個人賞の対象にはなりません。決勝トーナメント、またトーナメント2には出場できません。
- ⑦ 引率をつけることは出場条件であり、引率の方の体調が良くない場合は、代わりの方（保護者も可）をお願いいたします。

◆ 出場校 – Participating Schools –

*学校名また英語名はチーム登録時に申請されたものをそのまま用いています。

岩手県	岩手県立一関第一高等学校	Iwate Prefectural Ichinoseki Daiichi Senior High School
茨城県	茨城県立並木中等教育学校	Ibaraki Prefectural Namiki Secondary School
茨城県	茨城県竹園高等学校	Ibaraki Prefectural Takezono High School
茨城県	茨城県清真学園高等学校・中学校	Seishin Gakuen
茨城県	日立第一高等学校	Hitachi Daiichi High School
栃木県	栃木県立宇都宮高等学校	Tochigi Prefectural Utsunomiya High School
栃木県	作新学院高等学校	Sakushin Gakuin High School
栃木県	栃木県立大田原高等学校	Otawara High School
栃木県	栃木県立宇都宮東高等学校	Tochigi Prefectural Utsunomiya Higashi High School
埼玉県	さいたま市立浦和高等学校	Saitama Municipal Urawa High School
埼玉県	埼玉県立川越女子高等学校	Saitama Prefectural Kawagoe Girls' High School
埼玉県	埼玉県立大宮高等学校	Omiya High School
神奈川県	慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部	Keio Shonan Fujisawa Junior & Senior High School
神奈川県	栄光学園高等学校	Eiko Gakuen High School
神奈川県	聖光学院高等学校	SEIKO
神奈川県	カリタス女子高等学校	Caritas Senior High School
神奈川県	浅野高等学校	Asano High School
千葉県	翔凜高等学校	Shorin High School
千葉県	千葉県立松戸国際高等学校	Chiba Prefectural Matsudo Kokusai High School
千葉県	東邦大学付属東邦高等学校	Toho Senior High School
千葉県	渋谷教育学園幕張高等学校	Makuhari Senior High School
東京都	渋谷教育学園渋谷高等学校	Shibuya High School
東京都	三田国際学園高等学校	MITA International High School
東京都	東京都立日比谷高等学校	Tokyo Metropolitan Hibiya High School
東京都	広尾学園高等学校	Hiroo Gakuen Senior High School
静岡県	藤枝明誠高等学校	Fujieda Meisei High School
静岡県	静岡県立清水東高等学校	Shizuoka Prefectural Shimizu Higashi High School
静岡県	静岡県立三島北高等学校	Shizuoka Prefectural Mishimakita Senior High School
静岡県	静岡県立浜松西高等学校	Shizuoka Prefectural Hamamatsu Nishi High School
静岡県	静岡県立浜松江之島高校	Hamamatsu Enoshima High School
山梨県	山梨県立甲府西高等学校	Kofu Nishi High School
長野県	長野県長野高等学校	Nagano Senior High School
富山県	富山国際大学付属高等学校	Toyama University of International Studies High School
福井県	福井県立藤島高等学校	Fukui Prefectural FUJISHIMA High School
愛知県	南山高等学校女子部	Nanzan Girls'
愛知県	愛知県立千種高等学校	Chigusa High School
愛知県	東海高等学校	Tokai High School

大阪府	関西学院大阪インターナショナルスクール	Senri-Osaka International Schools of Kwansei Gakuin
兵庫県	神戸大学附属中等教育学校	Kobe University Secondary School
岡山県	岡山県立岡山朝日高等学校	Okayama Prefectural Okayama Asahi Senior High School
愛媛県	愛媛県立宇和島南中等教育学校	Ehime Prefectural Uwajimaminami Secondary School
徳島県	徳島県立城ノ内中等教育学校	Tokushima Prefectural Johnouchi Secondary School
徳島県	徳島県立徳島北高等学校	Tokushima Kita High School
福岡県	福岡県立香住丘高等学校	Fukuoka Prefectural Kasumigaoka High School
熊本県	真和高等学校	Shinwa High School
熊本県	熊本県立八代高等学校	Yatsushiro High School
鹿児島県	鹿児島県立鶴丸高等学校	Tsurumaru High School

— 以上 47 校

◆ 大会日程 – Tournament Schedule –

■ 3月22日(金) 第1日目

15:00	受付、入場 (センター棟・417)
15:30	開会式
16:20	◇ プレゼンテーション① 公益財団法人日本英語検定協会 「IELTSの試験について」 プレゼンター：宮崎亮輔 (教育事業部 IELTS課) ・引率者ミーティング (センター棟・416にて)
17:00	宿泊施設チェックイン、夕食 (センター棟2階・カフェテリア「ふじ」にて各自)
19:00	◇ モデルディベート (センター棟417にて) ◇ プレゼンテーション② iaeグローバルジャパン株式会社 「グローバル人材の発揮:価値の多様性の中で」 プレゼンター：畠山直子 (iaeグローバルジャパン株式会社 代表取締役)
21:00	伝達後解散

■ 3月23日(土) 第2日目 予選

7:30	朝食 (カフェテリア「ふじ」にて各自)
8:30	入場、点呼開始 (センター棟・417)
8:45	○ 第1試合の対戦表・論題発表 (準備時間20分)
9:10	第1試合 (試合時間 約50分)
	試合後ジャッジによる勝敗の説明
10:50	○ 第2試合の対戦表・論題発表 (準備時間20分)
11:15	第2試合 (試合時間 約50分)
	試合後ジャッジによる勝敗の説明 (結果送信を含め30分以内)
12:35	昼食 (カフェテリア「ふじ」にて各自)
14:00	○ 第3試合の対戦表・論題発表 (準備時間20分)
14:25	第3試合 (試合時間 約50分)
	試合後ジャッジによる勝敗の説明 (結果送信を含め30分以内)
16:05	○ 第4試合の対戦表・論題発表 (準備時間20分)
16:30	第4試合 (試合時間 約50分)
	ジャッジによる勝敗の発表なしのアドバイス
18:00	夕食 (カフェテリア「ふじ」にて各自)
19:30	集合・点呼 (センター棟・417) ◇ プレゼンテーション ③ 株式会社トモノカイ プログラムデザイナー 中村円香 / ファシリテーター Toue Naomi Soledad (トウエ ナオミ ソレダー)
	◇ ワークショップ (センター棟・417) 「立論と準備時間の使い方」 講師: 小野暢 (HPDU チーフコーチ)
	◇ 「留学生 Talk」 (センター棟・416) 株式会社トモノカイ ファシリテーター Toue Naomi Soledad
21:00	伝達後解散

■ 3月24日(日)第3日目 決勝トーナメント & トーナメント2

7:00	シーツ回収 朝食 (カフェテリア「ふじ」にて各自)	
9:00	集合、点呼 (セ417)	
9:10	トーナメント出場チーム発表	
9:30	○ 準々決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分)	
10:00	準々決勝 (試合時間 約50分)	
11:05	○ 準決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分) [セ417]	[11:10~12:00] [準決勝と同時進行]
11:40	準決勝 (試合時間 約50分)	○ ワークショップ [セ416] 「反論とwhipの方法」 講師: 小野暢 (HPDUチーフコーチ)
12:20	昼食 (カフェテリア「ふじ」にて各自)	
13:30	○ 決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分) [センター棟417] ◇ アンケート記入	
14:00	決勝 試合開始 (試合時間 約 60 分)	
15:30	閉会式、表彰	
16:30	解散	

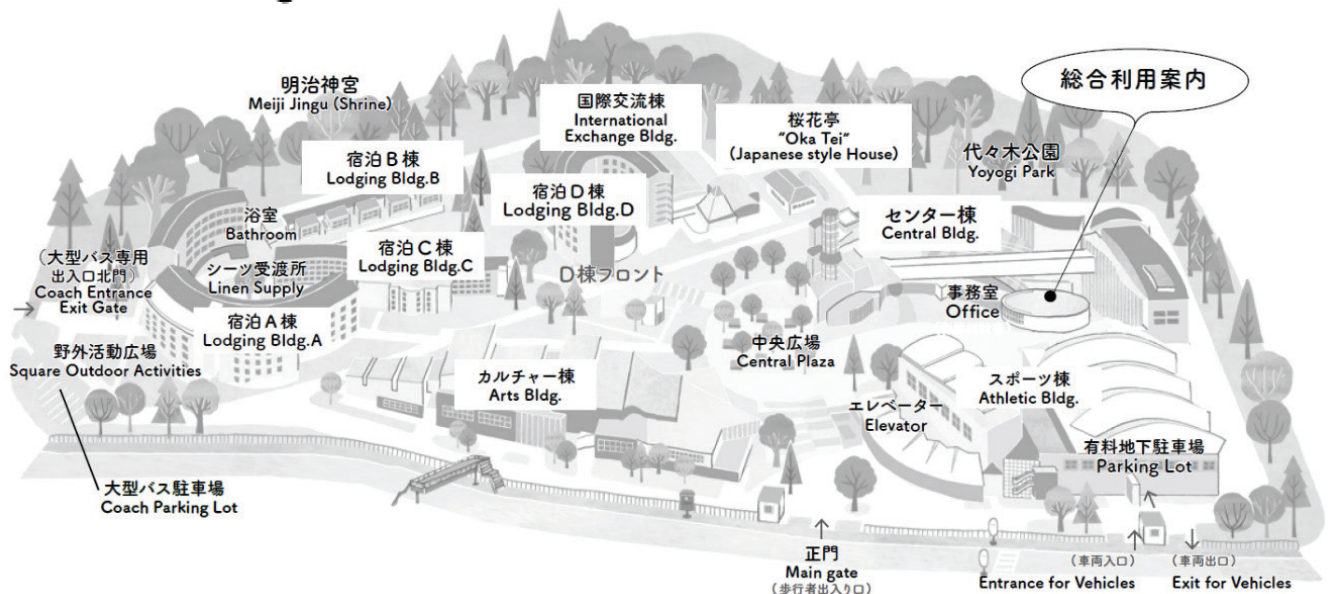
*準々決勝、準決勝の constructive speech は各5分です。決勝だけ7分になります。
また3日目の試合は全て準備時間が25分です。

オリンピックセンター施設の

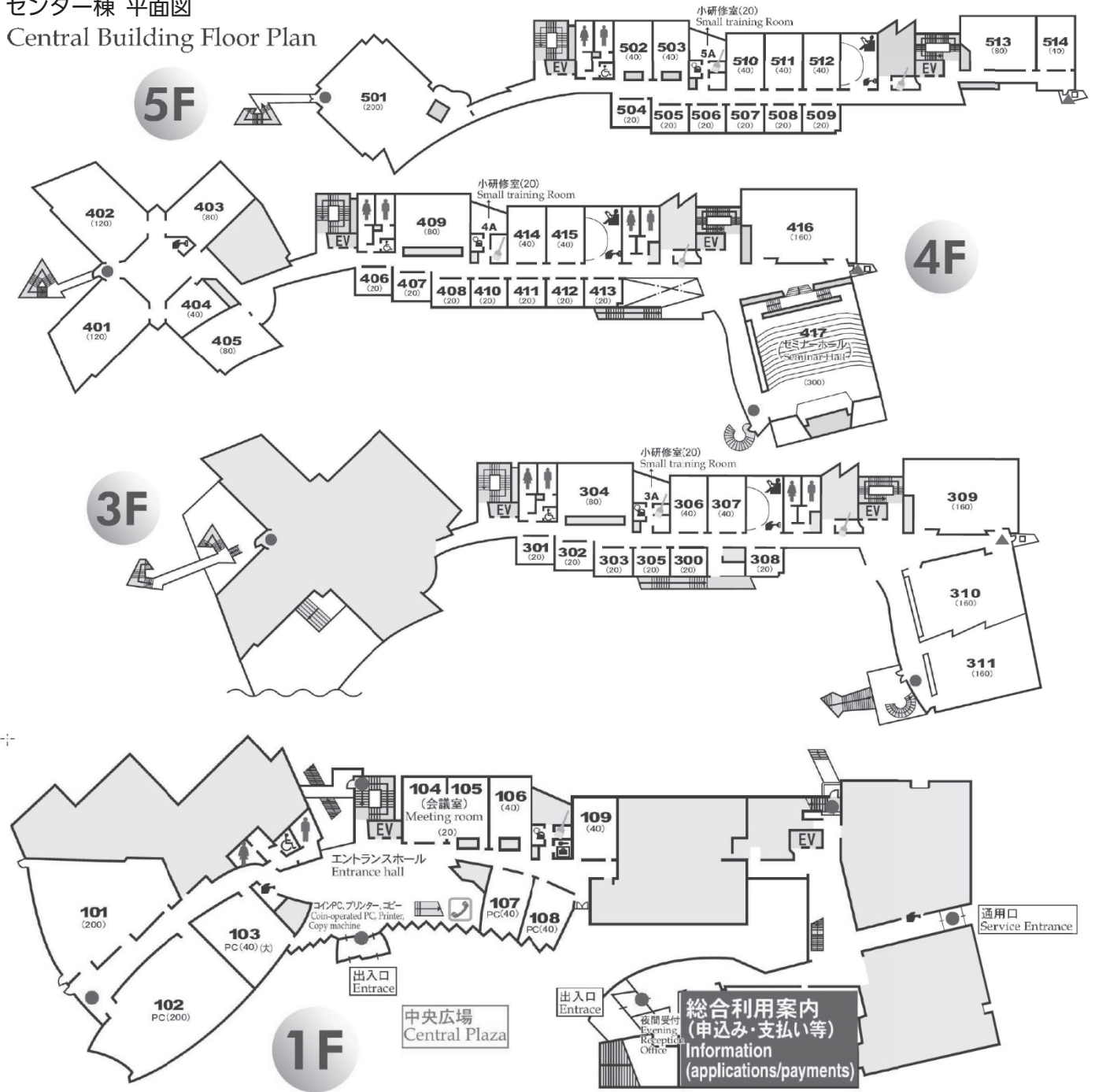


案内・地図 (Facility Maps)

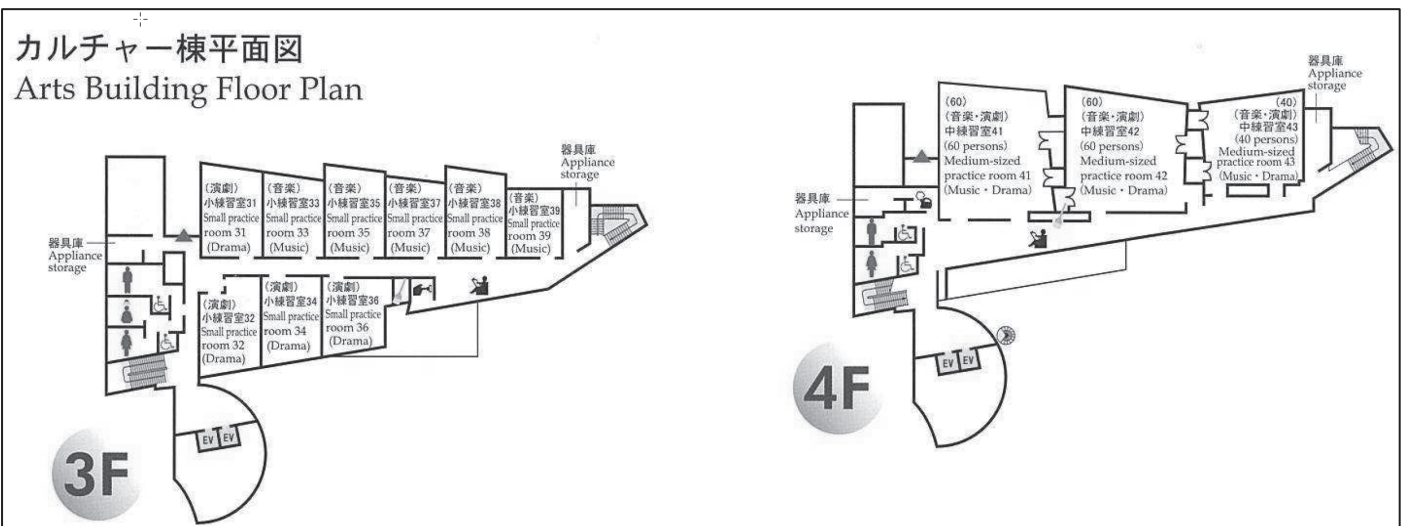
- ◆ カフェテリア『ふじ』 営業時間
朝食 7:30~8:30 昼食 11:45~13:00 夕食 17:30~18:30
- ◆ 施設内コンビニエンスストア [宿泊D棟1階 交流プラザ横]
営業時間 8:30~19:00



センター棟 平面図
Central Building Floor Plan



カルチャー棟平面図
Arts Building Floor Plan





The English-Speaking Union of Japan

一般社団法人 日本英語交流連盟

<https://www.esuj-gr.jp>

The English-Speaking Union of Japan (ESUJ)は、日本の人たちが国際コミュニケーションの「道具」としての英語に慣れ親しむようになることを目的として、1998年10月に創立された非営利団体です。英国を中心とする世界的ネットワークである English-Speaking Union (ESU)*の一員として、parliamentary debate、public speaking、communication skills に関する研修会と練習会、グローバルに活躍する専門家による講演会、交流会や outing event を開催しています。

創立以来主要活動であるパラメンタリーディベートの普及については、ESUJ 大学対抗ディベート大会、ESUJ 社会人ディベート大会、HPDU 杯を通じてディベートの普及活動を行ってきました。ESUJ は25年間に渡り 102 人の世界トップディベーターを日本に招聘し、彼らにジャッジやモデルディベーターとして活躍してもらい、全国にパラメンタリーディベートを紹介して参りました。

近年パラメンタリーディベートを楽しむ人が急増しています。ESUJ は昨年新たに ESUJ Debate Club を発足し、誰でも参加できるディベート練習会や研修会、そして交流会を開催しています。国内最高峰のディベートメンターの指導が受けられる貴重な機械です。是非ご参加ください！教員研修も実施しています。 <https://www.esuj.gr.jp/debate/>

*ESU (English-Speaking Union)は 1918 年に英国で発足し 100 年の歴史を持つ英国王室認可の教育チャリティー団体です。世界約 50 カ国でディベート、スピーチ、ドラマなどのコンテスト、国際情勢に関する講演会、会員の交流と英語コミュニケーションのための多彩なプログラムを実施しています。英国で最も古く由緒ある中学高等学校パラメンタリーディベート大会(Schools' Mace)を主催しています。(<https://www.esu.org>)

留学はIELTSで

IELTS(アイエルツ)とは

IELTS(International English Language Testing System)は、英語圏への留学や就労、移住を志す人の英語能力を評価するために作られたテストです。イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアなど世界140カ国で11,000以上の機関がIELTSを受け入れ基準として認定しています。

日本英語検定協会が実施するIELTSでは
自分の好みや予定に合わせて受験方式が選べます。



紙と鉛筆で受験

or



コンピューターで受験

- 全国主要都市で開催、近くで受験できる!
- 東京、横浜/川崎、名古屋、大阪、福岡でスピーキングテストの試験予約ができる

- ほぼ毎日実施! 試験日程が多く予定を合わせやすい

- 東京駅前、東京市ヶ谷、名古屋、大阪で実施

※名古屋、市ヶ谷会場はパークレーハウス運営

英検 IELTS 公式
X(旧Twitter)アカウント



@ielts_eiken

IELTSに関する情報をタイムリーに発信しています!



NEW /
One Skill Retake
が始まりました

One Skill Retakeとは、IELTSコンピューター版で受験した結果に対し特定の1技能のみを再受験することができる制度です。



おすすめ/
**東京駅前
テストセンター**
JR東京駅
八重洲直結
(徒歩2分)

詳細・お申し込み <https://www.eiken.or.jp/ielts/>



お問い合わせ先 公益財団法人 日本英語検定協会 IELTS事務局 (平日9:30~17:30、祝日を除く)

IELTS公式 東京テストセンター

TEL: 03-3266-6852

Email: jp500ielts@eiken.or.jp

IELTS公式 大阪テストセンター

TEL: 06-6455-6286

Email: jp512ielts@eiken.or.jp

英検

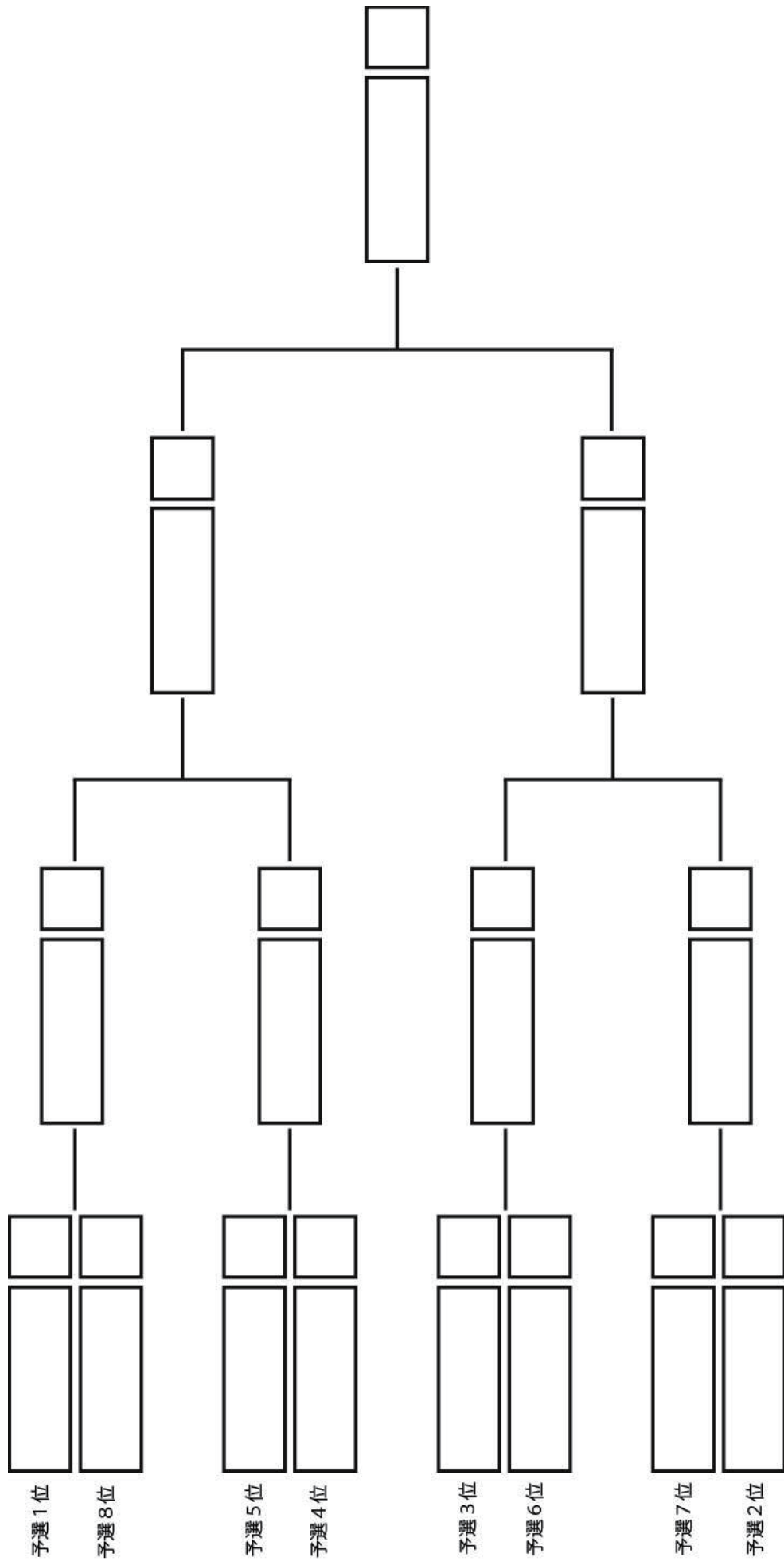
公益財団法人
日本英語検定協会

BRITISH
COUNCIL

IELTS

Official Test Centre

■ Main Tournament



世界の舞台で輝く人材になる ~海外進学を通して身に着く能力~

「英語を流暢に話せる人＝グローバル人材」と思われがちですが、決してそうではありません。一步外に出れば、英語だけではなく第二、第三ヶ国語を流暢に使い分ける人材を目にすることも多くなりました。では、世界で輝く「グローバル人材」とはどんな人材なのでしょう。これについて明確な定義はありませんが、グローバル社会で活躍している方々の話を総合すると、下記のソフトスキルがこれからの時代に求められているスキルだと考えられます。

グローバル社会が求めるソフトスキル



このようなスキルを習得するにはどうしたらいいのでしょうか。一つの選択肢として挙げられるのが**海外留学**です。海外留学と聞くと、多くの人は語学力を高めるための手段と考えがちですが、海外進学を通して培われる能力は非常に幅広く、ハードスキルからソフトスキルまで多様です。海外へ進学することで、ここに挙げたような日本ではあまり経験できない教育を受け、技術を高めることができる他、生活面では、その土地の文化に触れることで、異文化・多文化理解を深め、自分のアイデンティティを確立することができます。

世界中が進学の実績です

私共 iae 留学ネットは、世界各国に 700 を超える教育機関、1500 を超えるキャンパスとの提携を持っています。毎年 22,000 人以上の留学生をサポートし、アジア最優秀エージェント賞を 4 度受賞いたしました。30 年以上に亘り培ってきたノウハウで、数ある選択肢の中からあなたの可能性を最大限に引き出せる留学プランをご提案致します。

iae留学ネットにおまかせください！

iae留学ネットでは語学学校から海外トップスクールへの進学まで、あらゆる留学を無料でサポートしています。

留学サポート実績

世界各国 700 校以上の教育機関と提携、毎年 22,000 人の留学サポート



UCLA

カリフォルニア大学
アーバイン校 (アメリカ)
University of California,
Irvine (US)



ミシガン大学
(アメリカ)
University of Michigan
(US)

US

サセックス大学
(イギリス)
University of Sussex
(UK)

EXETER

エクセター大学
(イギリス)
University of Exeter
(UK)



ブリティッシュ
コロンビア大学 (カナダ)
University of
British Columbia (Canada)



オーストラリア国立大学
(オーストラリア)
Australian National
University (Australia)
CRICOS:00120C



シドニー大学
(オーストラリア)
University of Sydney
(Australia)
CRICOS:0026A



クイーンズランド大学
(オーストラリア)
University of Queensland
(Australia)
CRICOS:0025B



オークランド大学
(ニュージーランド)
University Of Auckland
(New Zealand)

世界中の大学情報がありません

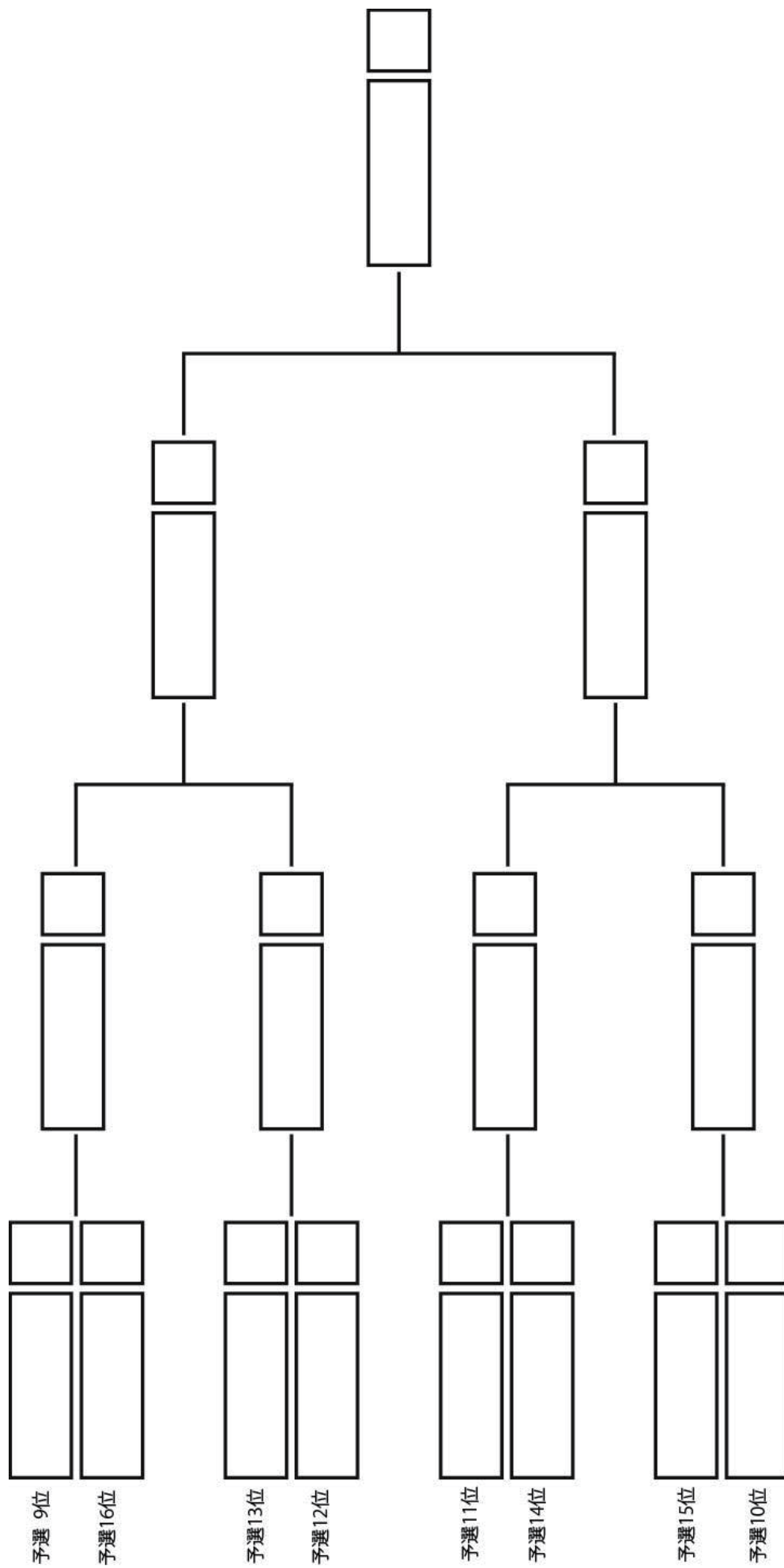
記載されている学校以外にも様々な大学、語学学校、ホームステイなど、すべての人に留学を成功していただくためのプランをご用意しております。無料個別カウンセリング、メール・電話・LINE・Skypeでの無料相談、各種イベントやセミナーなども随時開催中です。



QRコードアクセスで
出願料無料!



■ Tournament TWO

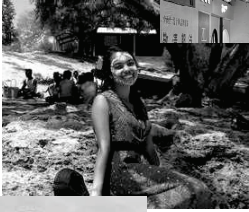


いつもの教室が、 世界とつながる

—日本の大学・大学院で学ぶ、
トモノカイの外国人留学生たちの母国—




Power in ME
PROGRAM



トモノカイとは…？

カジュアルな会話はもちろん、社会問題などの話題まで幅広く
留学生と一緒に考えるプログラムも運営しています。

トモノカイは、国際教育として年間約120校の皆様と、「共生社会で生きる力を耕す国際交流」を行っております。
4500名125名の外国人留学生（大学院生が9割）から選ばれた「バディ」とともに、教室の中で、英語をツールとして世界
の人と一緒に楽しみ、一緒に考え、一緒につくる経験を、「すべての中高生」に向けて届けております。



▲生徒様280名のプログラムに参加した、
70名（38か国）の留学生

▼プログラムの様子はこちらから！
<https://youtu.be/k7ZDdWKd0wM>



◆実績一覧

（導入校様の一部のみ抜粋/50音順・敬称略）

- ・開智日本橋学園高等学校
- ・静岡県立浜松北高等学校
- ・渋谷教育学園渋谷中学高等学校
- ・淑徳巣鴨中学高等学校
- ・成立学園中学・高等学校
- ・大東文化大学第一高等学校
- ・八千代松陰中学校・高等学校
- ・横浜隼人中学高等学校
- ・横浜富士見丘学園中学校・高等学校

◆お問い合わせ

株式会社トモノカイ グローバル教育共創室
050-1741-1243(平日10時～18時)
info.global@m.tomonokai-corp.com

みなさんへ、トモノカイの留学生からメッセージ

日本での学びを 母国の発展に活かしたい



Min

ミャンマー出身。

母国で教育を学び、アシスタント教授を経験。日本では、一橋大学ビジネススクール国際企業専攻を修了。現在は大学のTA(teaching assistant)として働きながら、IGCSEという国際的な高等教育資格の取得を目指す母国の学生に、経済やビジネスを教えている。

I have been studying Japanese for ten years and lived in Japan for about four, mostly through university exchange programs. At first, the prospect of moving to a different country, away from my family and stepping into a new culture scared me. But with time, I found out that the most difficult step is always the first one. After finding the courage to take it, after stepping out of my safe place, I not only encountered an amazing new culture but also people with diverse perspectives and backgrounds.

Participating in a debate is not so different. When you take that final, brave step in front of the crowd, you expose yourself to a wide variety of people, each with a different way of thinking and unique values. Discussing with them about a particular matter, listening to their differing opinions, sometimes challenging them, sometimes accepting and supporting them, is a stimulating and thrilling experience that leads to a better understanding of who you are.

Studying abroad is like stepping in front of a much bigger crowd. Similar to a debate, you will make new discoveries, learn how to accept them, how to confront them, how to adjust to them. And in the process, you will rediscover yourself, your ideas and your values. It only takes one step. The importance of taking it while maintaining a positive and optimistic attitude is what I learned during my exchange years in Japan.

So, let this debate be not only a competition, but a first step towards self-discovery and cultural exploration. Embrace the challenges, cherish the victories, and remember, every step you take is an opportunity for personal growth and for a deeper connection with the world around you.

Hello. My name is Min and I am originally from Myanmar. I came to Japan to study at Hitotsubashi University ICS.

Prior to moving to Japan, I worked as an assistant lecturer at one of Myanmar's public universities. The department where I worked was in charge of teaching business management students. At first, I had no interest in studying abroad as I was not confident in my English skills and never applied for the scholarship program. In 2019, I was chosen to attend a workshop named Social Entrepreneurship in Scotland and I realized that I needed to study more to trace the ever-changing environment and that studying abroad could help me develop my career. Since that time, I have started trying to study in foreign countries.

One of the countries that comes to mind is Japan, as I have been a fan of Ghibli's animations and the scenery in Japan since I was in high school, and I have always wanted to visit. Also, studying in Japan is popular in my workplace as well as in my country. My seniors from the same department who were studying in Hiroshima shared their experiences in Japan on social media, which encouraged me to apply for the scholarship program through MEXT*. Hitotsubashi University has an English program for a Master of Business Administration. I thought that program was for me, as my department teaches business administration. From my learning there, I trusted I could contribute more to my department and I got the opportunity to study at Hitotsubashi University. *文部科学省

As a developing country, my country faces numerous social challenges and requires more socially responsible businesses. I aspired to be a socially responsible business owner who could create job opportunities in my home country while learning the necessary skills in Japan.

ディベートは 次なる挑戦への第一歩



Luigi

イタリア出身。

大学では比較文学を専攻し、東北大学に1年間交換留学を経験。その後、大学院に進学し、国際関係学に変更、今度は1年間神戸大学に交換留学、ダブルディグリーを取得。現在は早稲田大学でPhDとして社会学を専攻中。趣味はゲームと料理。

◆ 試合形式 – Debate Format –

[参加人数] 6人 (1チーム3人 × 2チーム)

*Constructive Speech での POI への Protected Time はスピーチ制限時間の最初と最後の 30 秒間 (決勝のみ 1 分間)

【話す順番と役割】

Affirmative Side	Negative Side
<p>準備時間</p> <p>(1 日目の予選は論題発表から試合開始まで 20 分 / 2 日目の決勝トーナメントでは 25 分)</p>	
<p>Constructive Speech (各 5 分 / 決勝のみ各 7 分)</p>	
<p>◆ Prime Minister (PM)</p> <ol style="list-style-type: none"> 論題を確認し曖昧な語を定義し、何を政府側が立証するか説明 論題を肯定する大まかな理由の提示 試合で自分とメンバーとそれぞれ何を説明するか、アウトラインの提示 肯定側の根拠を複数の議論に分け説明 <p>◆ Member of the Government (MG)</p> <ol style="list-style-type: none"> 否定側との立場の違いを大まかに説明 否定側の議論に対して反論 肯定側の新しい議論を導入 否定側による反論に対して立て直し <p>◆ Government Whip (GW)</p> <ol style="list-style-type: none"> 試合を総括する観点の導入 否定側の議論全てに対し反論 反論された議論を全て立て直し 	<p>◆ Leader of the Opposition (LO)</p> <ol style="list-style-type: none"> PM の定義を確認し必要があれば再定義して野党側が何を否定するか説明 いかなる理由から論題を否定するか、大まかに説明 試合で、自分とメンバーが何を説明するか、アウトラインを示します。 政府側が出した議論に対して反論 野党側の根拠を、複数の議論に分け説明 <p>◆ Member of the Opposition (MO)</p> <ol style="list-style-type: none"> 政府側との立場の違いを大まかに説明 政府側の議論に対して反論 野党側の新しい議論を導入 肯定側による反論に対して立て直し <p>◆ Opposition Whip (OW)</p> <ol style="list-style-type: none"> 試合を総括する観点の導入 肯定側の議論全てに反論 反論された議論を立て直し
<p>Reply Speech (各 4 分)</p>	
<p>◆ Government Reply</p> <ol style="list-style-type: none"> 試合を総括する観点の導入 肯定側が試合に勝った理由の説明 	<p>◆ Opposition Reply</p> <ol style="list-style-type: none"> 試合を総括する観点の導入 否定側が試合に勝った理由の説明

以下は大会ルールの要旨です。ルールに関して判断が必要な場合は、大会運営委員長が最終的な判断を行います。

[出場登録について]

- ・同じ高校に在籍する生徒 3 名で 1 チームの登録となります。各試合ごとに、チーム内でのスピーチ役割は変更しても構いません。
- ・日本の高校に在籍している限り、海外経験や国籍などによる本大会への出場制限はありません。

[対戦組み合わせについて]

- ・第 1 試合の対戦組み合わせは事前にランダムで決められています。予選 2 試合目、3 試合目、4 試合目はパワーペアリングによって決められます。
- ・予選 4 試合の勝敗数、そして勝敗数が同じチーム間ではスピーカーズ・スコアの総得点で、予選の順位を決定します。勝敗数、スピーカーズ・スコアの総得点と同じであったチームがあった場合、対戦チームとのスピーカーズ・スコア総得点の点差が、累計でより大きかったチームを上位チームとします。
- ・上位 8 チームが決勝トーナメントに進出し、準々決勝では予選の成績が良かった順に 1~8 の番号を振り、以下の通りで対戦を行います。

[準々決勝 A] team 1 対 team 8 [準々決勝 B] team 2 対 team 7

[準々決勝 C] team 3 対 team 6 [準々決勝 D] team 4 対 team 5

*トーナメント 2 の対戦組み合わせは、9 位~16 位を同様に割り振ります。

[試合開始前の準備時間について]

- ・論題は、予選では試合開始の 20 分前に発表されます。論題発表後以降は、ディベーターはチームメイト以外と相談してはいけません（顧問とも相談してはいけません）。決勝トーナメントでは、準備時間は 25 分です。
- ・高価な道具を用意できたかどうかによって勝敗が左右されることがないように、論題発表以降は、ストップウォッチ、電子辞書専用機を除いた電子機器の使用は許されません。携帯電話やタブレット端末をストップウォッチの代わりに用いることも禁じます。

【スピーチの順番および時間（予選試合）】 *決勝の試合のみ Constructive Speech を各 7 分とします。

準備時間 20 分	
1) Prime Minister(PM) (5 分)	
	2) Leader of the Opposition (LO) (5 分)
3) Member of the Government(MG) (5 分)	
	4) Member of the Opposition(MO) (5 分)
5) Government Whip (5 分)	
	6) Opposition Whip (5 分)
	7) Opposition Reply (4 分)
8) Government Reply (4 分)	

[試合の流れ]

- ・予選試合では、最初の6つのスピーチ(Constructive Speech)は各5分間、そしてReply speechは4分間となります。
- ・各 Constructive Speech の最初と最後の30秒間を除いた時間では、対戦相手のチームは Point of Information(POI)を行うことができます。POI がスピーカーから許可された場合、最長で15秒だけ話すことができます。POI を求める際には、まず必ず起立してください。
- ・Reply Speech は、チームの1人目または、2人目のスピーカーのいずれかが行います。Whip Speaker が Reply speech を行うことは出来ません。
- ・あるスピーカーが、与えられた時間よりも早くスピーチを終えた場合は、時間の経過を待つことなく次のスピーカーのスピーチに移ります。あるスピーカーが30秒以上超過してスピーチを続けた場合、ジャッジが強制的にスピーチを終了させます。

[スピーカーの役割]

- ・各チーム最初の2人のスピーカーは、それぞれ肯定または否定側の議論を示し、また相手チームの議論に最低限の反論をします。
- ・3人目の Whip speaker は、主に相手チームの議論への反論、そして反論された内容を受けての議論の立て直しを行います。
- ・Reply Speech では、どうして自分たちのチームがその試合で勝利したのか、いくつかの争点に絞って説明を行います。

[勝敗について]

- ・各試合では、勝敗と各スピーカーの個人得点が決められます。Constructive Speech では、75を基準に上下8点の幅で各スピーチに得点が与えられます。Reply speech では、37.5を基準に上下4点の幅で得点が与えられます。
- ・予選第1試合、第2試合ではジャッジが試合終了後に口頭で試合の勝敗とその理由を説明します。

Constructive Speeches (out of 100)

Standard	Overall
Excellent	82-83
Good	79-81
Above Average	76-78
Average	75
Below Average	72-74
Poor	69-71
Extremely Poor	67-68

Reply Speeches (out of 50)

Standard	Overall
Excellent	41 – 41.5
Good	39.5 – 40.5
Above Average	38 – 39
Average	37.5
Below Average	36 – 37
Poor	34.5 – 35.5
Extremely Poor	33.5 – 34

◆ 過去の大会の記録 – Past Tournament Results–

第1回大会 (2012年3月18日) 会場：埼玉県立伊奈学園総合高校

優勝：京都紫野高校 準優勝：さいたま市立浦和高校

Round 1	This house believes that students in elementary schools and junior high schools should be required to repeat a grade if their class performance is poor.
Round 2	This house would make voting at elections compulsory.
GF	This house would ban fortune-telling businesses.

第2回大会 (2013年3月23、24日) 会場：渋谷教育学園渋谷中学高等学校

優勝：宇都宮高校 準優勝：さいたま市立浦和高校

Round 1	This house would allow gifted students to skip grades in schools.
Round 2	This house would ban experiments on animals.
Round 3	This house believes that using the Internet in political election campaigns will do more harm than good.
QF	This house would use quotas to increase the representation of women in the Japanese parliament.
SF	This house would penalize media companies that broadcast the use of physical abuse (such as beating or kicking someone) as a form of humor.
GF	This house believes that the US federal government should ban the private use of firearms.

第3回大会 (2014年3月21、22日) 会場：代々木オリンピックセンター

優勝：国際基督教大学高校 準優勝：渋谷教育学園渋谷高校

Round 1	This House believes that parents should have the right to access all accounts of their children's social networking sites.
Round 2	This House would apply the retirement age to politicians.
Round 3	This House believes that the Tokyo Olympics venue should include the Tohoku/Fukushima area.
QF	This House would deny those who have made poor lifestyle choices and actively harmed themselves (fatty food, alcohol, smoking) the access to the national health insurance.
SF	This House believes that research institutions that actively employ female scientists should be given more research funding by the government.
GF	This House believes that Japan should not impose any sanctions on Russia regarding the Crimea issue.

第4回大会 (2015年3月14、15日) 会場：代々木オリンピックセンター

優勝：渋谷教育学園渋谷高校 準優勝：宇都宮高校

Round 1	This house would require all Internet users to use their real names.
Round 2	This house believes that gambling of all forms (e.g. lotteries, horse racing, or casinos) should be illegal.
Round 3	This house believes that governments should refuse to assist in rebuilding areas prone to natural disasters.
QF	This house would abolish death penalty.
SF	This house would provide welfare in the form of basic goods and services, rather than cash payments.
GF	This house believes that governments should negotiate with terrorists when their citizens are taken hostage by terrorist groups.

第5回大会 (2016年3月12、13日) 会場：代々木オリンピックセンター

優勝：宇都宮高校 準優勝：洗足学園高校

Round 1	This house would require broadcasters to devote equal time and prominence to coverage of female sports games as male sports games.
Round 2	This house would pay all elected politicians the median wage in their electoral district.
Round 3	This house would allow prisoners to donate their organs in exchange for shortening of their sentences.
QF	This house believes that, upon request by the authority, smart phone companies should be forced to unlock their products used by criminals.
SF	This house believes that the EU should abandon its commitment to the principle of open borders between member states.
GF	This house believes that democratic countries should not attend sporting events in countries with bad human rights records.

第6回大会 (2017年3月19、20日) 会場：さいたま市立浦和高等学校

優勝：宇都宮高校 準優勝：筑波大学付属駒場高校

Round 1	This house would ban alcohol.
Round 2	This house would abolish escalator system in schools (such as Keio, Waseda).
Round 3	This house would legalize organ transplant for profit.
QF	This house believes that US military bases should be removed from Japan.
SF	This house would abolish all laws restricting free speech.
GF	This house prefers a world without marriage.

第7回大会 (2018年3月24、25日) 会場：国際基督教大学高校 / 代々木オリンピックセンター

優勝：渋谷教育学園渋谷高校 準優勝：さいたま市立浦和高校

Round 1	This house would ban cosmetic surgery.
Round 2	This house would require doctors to report all cases of suspected domestic violence.
Round 3	This house would give right to vote to prisoners.
QF	This house would legalize euthanasia.
SF	This house would give national treasures back to its people.
GF	This house would criminalize the paying of ransom.

第8回大会 (2019年3月24、25日) 会場：代々木オリンピックセンター

優勝：渋谷教育学園幕張高校 準優勝：浅野学園高校

Round 1	This House would ban beauty contest.
Round 2	This House would introduce conscription.
Round 3	This House would completely ban broadcasting of suicide.
Round 4	This House would ban all forms of gambling.
QF	This House would ban use of combat drones.
SF	This House would trade with oppressive regimes.
GF	This House believes that free speech should include the right to offend.

第9回大会 (2020年3月22、23日) 会場: オンライン実施

優勝: 筑波大学附属駒場高等学校 準優勝: 渋谷教育学園渋谷高等学校

Round 1	This House would abolish the Olympic Games.
Round 2	This House would prohibit criminals from publishing descriptions of their crimes.
Round 3	This House believes that the state should not subsidize art.
Round 4	This House believes that feminism movement should oppose affirmative action for women.
QF	This House believes that humanitarian aid does more harm than good to active conflict zones.
SF	This House would prohibit corporations from sponsoring academic research.
GF	This House would abolish private property.

第10回 記念大会 (2021年3月21、22日) 会場: オンライン実施

優勝: 筑波大学附属駒場高等学校 準優勝: 渋谷教育学園渋谷高等学校

Round 1	This house believes that the age of digital information (e.g. social media, online news, etc.) has done more harm than good in protecting democracy.
Round 2	Given the technology, this house would erase society's memory and evidence of the criminal past of former convicts after their release from prison.
Round 3	This house prefers a world without lying.
Round 4	This house believes that, assuming Personal Protective Equipment is sufficiently available, medical workers during a pandemic should have the right to opt out of service.
QF	This house believes that spouses of political figures should not be recognized as public figures.
SF	Instead of leaving the decision up to the producing company, this house would legally require that Self-Driving Cars produced by companies always choose to maximize the number of lives saved, even if it leads to the death of the passengers.
GF	This house believes that hacking is a legitimate way of protest against multinational corporations

第11回大会 (2022年3月26、27日) 会場: オンライン実施

優勝: 栄光学園高等学校 準優勝: 筑波大学附属駒場高等学校

Round 1	This House believes that the tourism industry does more harm than good for the citizens of developing countries.
Round 2	This House, as the feminist movement, would advocate for the abolishment of boys-only and girls-only schools.
Round 3	This House would grant senior military officers a veto over military decisions made by politicians (e.g. troop deployments, specific missions).
Round 4	This House would make the number of votes an individual has inversely proportional to their wealth (i.e. the more wealth an individual has the fewer votes that individual has).
QF	This House prefers a world in which those accused of crimes remain completely anonymous to the public unless they receive a guilty verdict.
SF	This House believes that the assassination of political leaders is a legitimate tool of foreign policy.
GF	This House supports athletes using international sporting events (the Olympics, World Baseball Classic, FIFA World Cup, etc.) as platforms to protest and raise political stances.

第12回大会（2023年3月25～27日） 会場：代々木オリンピックセンター

優勝：渋谷教育学園幕張高等学校 準優勝：筑波大学附属駒場高等学校

Round 1	This house believes that big businesses should encourage their employees to work from home even after pandemics are no longer a threat to public health and safety.
Round 2	This house believes that a world without extreme emotions (falling madly in love, extreme grief, boiling rage) is a better world.
Round 3	This house believes that feminism is incompatible with capitalism.
Round 4	This house believes that multinational companies should equalize wages for their workers in developing countries with those in their home countries.
QF	This house would ban tobacco.
SF	This house believes that assassination is a justifiable response to the human rights abuses and political oppression committed by political leaders.
GF	This house believes that the present condition of humanity is better than it would be in 100 years

HPDU 杯都道府県大会

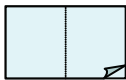
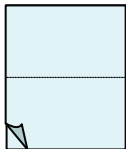
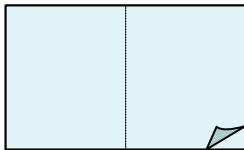
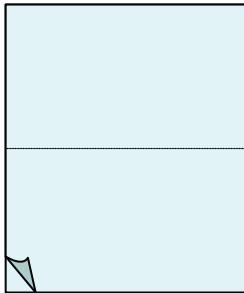
推奨論題リスト

- THW allow gifted students to skip grades in schools.
- THW stop teaching English in elementary schools.
- THBT teachers' salaries should be based on students' academic performance.
- THBT schools should ban animal dissection.
- THBT it is better for high school students to have a part-time job.
- THW introduce a fat tax on junk foods.
- THW ban tobacco.
- THW ban cosmetic surgery.
- THW ban children from becoming professional models.
- THBT watching movies at home is better than watching movies at the theater.
- THBT television does more harm than good.
- THW ban violent video games.
- THW ban combat sports.
- THBT the use of animals for public entertainment should be banned.
- THW make voting compulsory.
- THBT the prime minister of Japan should be directly elected by citizens' vote.
- THW abolish the House of Councilors.
- THW introduce mandatory retirement age for politicians.
- THW set quotas for women in the Diet.
- THW require all Internet users to use their real names.
- THW restrict advertising aimed at children.
- THBT criminals trials should be broadcasted on TV.
- THW abolish death penalty.
- THBT torture is justified for national security.
- THBT all violent juvenile offenders should be treated as adults in the criminal justice system.
- THBT governments should never pay ransom to save hostage.
- THW introduce conscription.
- THW legalize active euthanasia.
- THW legalize selling organs.
- THW ban abortion.
- THW abolish zoos.
- THW ban whaling.
- THW legalize genetically modified foods.
- THW ban animal experiments.
- THBT Japan should introduce the carbon tax.
- THBT Japan should stop using nuclear power plants.
- THBT Japan should remove import restrictions on farm products.
- THW raise the consumption tax.
- THW set a maximum limit on salaries.
- THW stop sending humans into space.
- THBT Japan should make English the second official language.

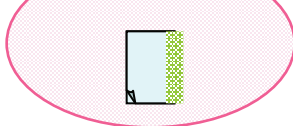
シーツ・枕カバーのたたみ方・返却について

《 たたみ方 》

シーツ（5回折る）

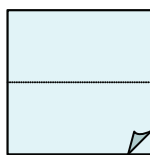
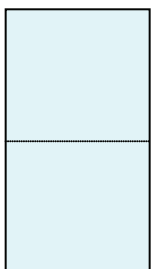


できあがり！

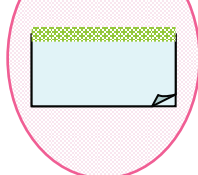


… 山折部分

枕カバー



できあがり！



《 返却 》

返却時間

7:00 ~ 9:00

(チェックアウトが早朝になる場合は 事前にご相談ください。)

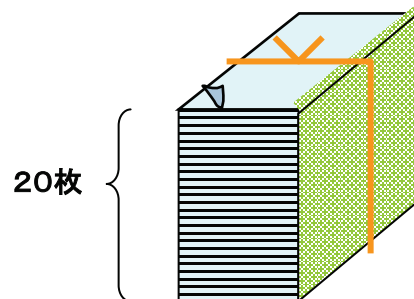
返却

リネンカード + たたんだシーツと枕カバー

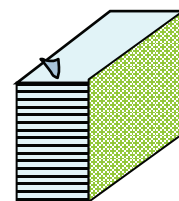
※ 必ず 貸出を行なったリネン室 に返却してください。
(A棟 もしくは C棟)

- シーツは、
山折部分をそろえて
20枚を1束にして ひもでくる。

(20枚ない場合は借りた分を1束に)



- 枕カバーは、
山折部分をそろえてまとめる。



※ たたみ方は、上記の順序で 数え易いようにたたむ程度で構いません。

2016.10

第13回 日本高校生パラメンタリーディベート連盟 新緑杯 東日本大会・西日本大会
HPDU Spring Greenery Competition of East / West Japan 2024

第5回 日本高校生パラメンタリーディベート連盟 新芽杯
HPDU Sprout Cup 2024

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

後援：公益財団法人 日本英語検定協会、一般社団法人 日本英語交流連盟、一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会

特別協賛：有限責任 あずさ監査法人

協賛：iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ

日時：2024年6月の日曜日に新緑杯と新芽杯を同日開催。

場所：新緑杯 東日本大会：さいたま市立浦和高等学校（予定）

新緑杯 西日本大会：オンライン（Zoom等にて実施 予定）

新芽杯：オンライン（Zoom等にて実施）

参加費：1チームにつき3,000円

主旨：（1）パラメンタリーディベートを通して高校生の総合的英語運用能力を伸ばす。

（2）新緑杯：経験者が新人ディベーターを育成する機会の提供。

新芽杯：大会出場経験が少ない高校生たちに対外試合の機会を与える。

（3）新緑杯：様々な社会問題に興味関心を持つ態度を養う。

新芽杯：身近な問題や社会の問題について論理的で説得力のあるスピーチを即興でできる力を伸ばす。

（4）高校教員のジャッジ養成。

参加資格：（1）日本に住所がある高校に在学している1学年から3学年までの生徒(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)。

（2）学校として新緑杯東日本大会、新緑杯西日本大会、新芽杯いずれか1つの大会に参加して頂くこととなります。

（3）1チームにつき1名のジャッジの派遣の提供をお願いします。2～3チームを申し込みの場合には2名のジャッジ提供が必要となります。

チーム構成の条件：

（1）1チームの登録人数は3人で、1校につき3チームまで登録が可能です。各チーム内には必ず新人ディベーターが1人は含まれていることが必要です。新人ディベーターとは、1年生、またはパラメンタリーディベートの公式大会（＝要項が存在し、複数の高校が参加でき、賞の授与がある大会）に参加したことがない2、3年生を指します。

（2）同一校のチームの参加とします。ただし、英会話スクールなどHPDUが認めた高等学校以外の団体は例外とします。

新緑杯試合形式：ノースアメリカンスタイル（7分、7分、7分、7分、4分、4分）

1チーム3名、4試合（2試合目以降はパワーペアリング）、準備時間は20分。

新芽杯試合形式：ノースアメリカンスタイル（4分、4分、4分、4分、3分、3分）

1チーム3名、3試合（2・3試合はパワーペアリング）、準備時間は30分とする。

第7回 HPDU 中学生パラメンタリーディベート大会 HPDU Middle School Competition 2025 について

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

協賛：有限責任 あずさ監査法人、iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ

協力：エიმネクスト株式会社

趣旨：①全国の中学生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を身につける意義を伝える。

②高校生の社会貢献活動や社会参画についての意識を高めるとともに、企画・運営力を育成する。また、ジャッジの役割を通して、自己のディベート力を向上させる。

日時：2024年2月23日（金・祝日）9時から17時までを予定

会場：オンライン（ZOOM、LINE）

Zoom を使用して実施するため各自 Wi-Fi 環境が整っている場所をご用意ください。また、モーションや対戦表の発表などは LINE を使用します。参加選手および提供ジャッジの方は予め Zoom と LINE のアカウントを取得してください。

参加資格：中学生（留学生、帰国生、外国籍の生徒も含む）

※学校、個人での申し込み共に可能。

※学校単位で申し込む場合は、1校につき2チームまでの申し込みです。

※チームの人数は3～5名（1試合に出場するのは3人だが、試合ごとに選手入替可能）。参加を希望するが人数が足りない場合は、運営側で他の個人申込者と組み合わせるチームを用意する。

試合形式：（1）短縮型ノースアメリカン・スタイル [4分、4分、4分、4分、3分、3分]

（Constructive speech が4分で、Reply speech が3分）。

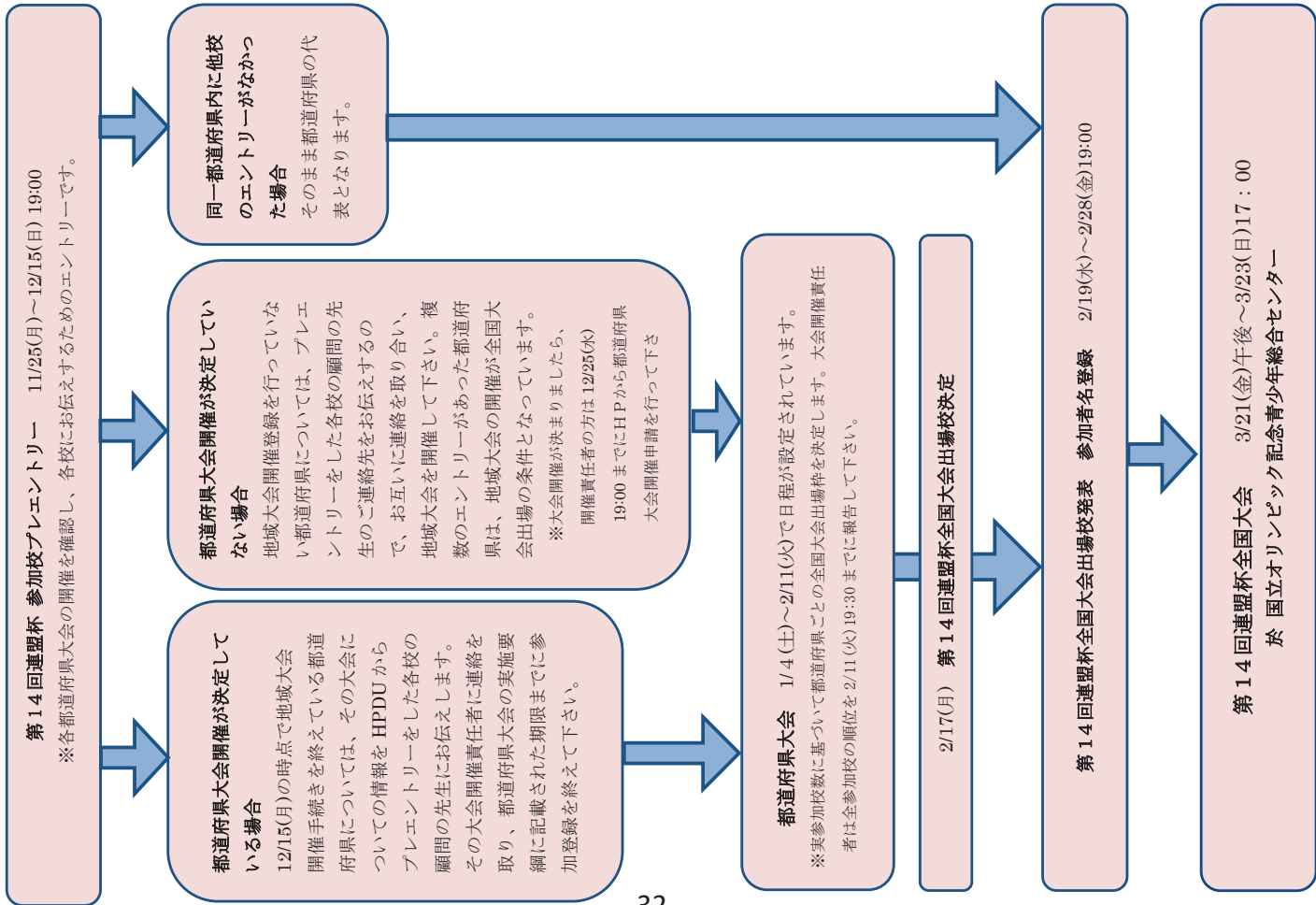
（2）論題発表から試合開始までの準備時間は、20分間。

（3）4試合数4試合（2試合以降はパワーペアリング）を予定。参加チーム数によって変更の可能性あり。

ジャッジ：高校生ディベーターと招待ジャッジ、HPDU 教員が行う。

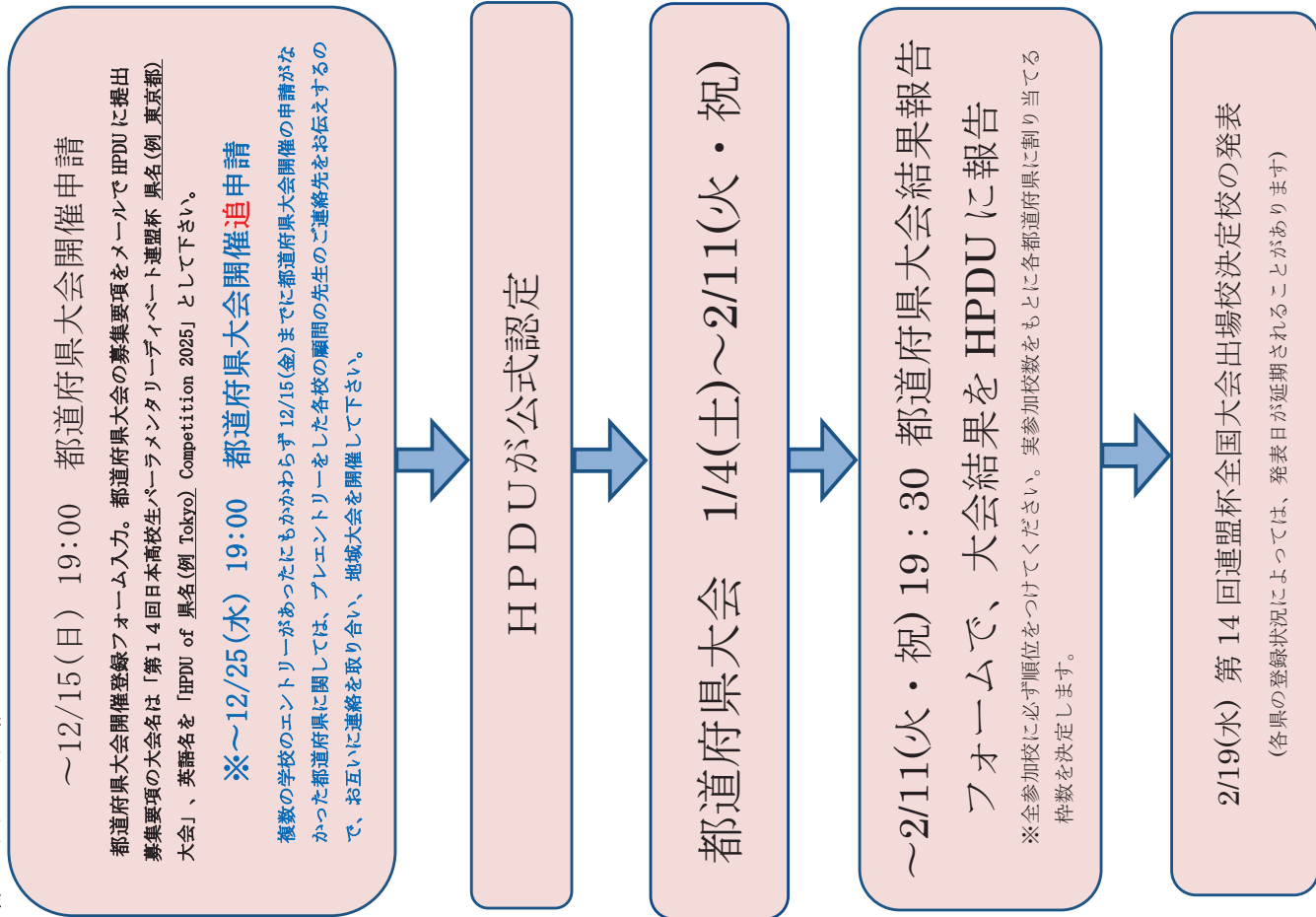
高校生ジャッジの応募資格：18か月以上のパラメンタリーディベート経験がある高校生で、公正なジャッジと勝敗の説明・アドバイスが可能な者

《第14回HPDU杯参加登録手順》



都道府県大会開催責任者の方へ

都道府県大会開催スケジュール



模擬 G20 Summit 2024 実施について

グローバル社会で活躍できる人材の育成を目的として発足した HPDU では、パラメンタリーディベートで身につけた力は必ず将来の役に立つということを、もっと高校生たちに実感してもらいたいと考えています。そこで、毎年、模擬 G7 Summit（高校生による模擬 G7 サミット/日本ユニセフ協会に後援）を開催しています。

[内容] 地球社会の問題について英語で話し合い、発表。

[日時] 2024 年 11 月 10 日（木）9:00～15:00 を予定

[場所] Zoom によるオンラインで開催予定

[主催] 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

[後援] （公財）日本ユニセフ協会に申請を予定

[参加対象] 世界各国の中高生。

[参加費] 無料

[申し込み方法] 実施要項をHPで掲載



模擬 G7 サミット 2023 活動報告（HPDU ホームページより）

今年の模擬 G7 サミット (Model G7 Summit 2023) では世界 4 か国から約 56 名の中高生が集い、新たなフードロス削減達成プログラムについて意見を交わしました。

開会式では、バングラデシュ出身の横浜国立大学修士課程 3 年生の Ms. Navila Tabassum をキーノートスピーカーとして迎え、世界全体を取り巻くフードロスの現状と問題点についてお話ししていただきました。特に、出身国であるバングラデシュをはじめとした発展途上国で、過剰供給でフードロスが生まれる先進国とは対照的に、食料を効率的に分配することができないことからフードロスが生じている現状が印象的でした。20 分にも及ぶ活発な質疑応答が行われ、次に運営委員が全員参加型のクイズを交えて現状の問題点や原因、フードロスの概要についてプレゼンテーションをしました。

その後はグループディスカッションに入り、参加者の中高生は「実現可能で効果的、そして明日から始められるようなフードロス削減プランを中高生独自の視点から考える」という課題に取り組みました。話し合いが包括的かつ円滑に進むよう、各グループにファシリテーターとして運営委員が適宜サポートを行いました。3 時間にも及ぶディスカッションを通して 8 つの各グループで考案したプランをまとめました。各グループのプレゼンテーションでは、最新アプリを使用して家庭内フードロス削減、生ゴミを肥料として再生するコンポストの先進国における推進、規格外野菜の販売、学生が地域の農家と協力して作物生産をする農園、SNS を使用した啓発活動など、中高生の自由な発想ならではのアイデアが多く見受けられました。また、今回は前年に引き続き「オーディエンス賞」という参加者投票による賞を設けたこともあり、お互いに他のグループの発表を熱心に聞き、質問を投げかける場面も見受けられました。

プレゼン審査では、キーノートスピーカーの Navila さんの他に（株）トモノカイの中村円香さんと Ms. Toue Naomi Soledad をゲストジャッジとして迎え、受賞発表と閉会式の際に講評をいただきました。事後アンケートでは「フードロスは先進国や発展途上国関係なく抱えている問題で、取り組むべきものだ」と知った」「自分が知らない国際問題が多くあることに気がつき、今後自身でもっと調べて学びたいと思うきっかけになった」

「『ゼロ・ウェイスト』に向けてすべての国が協力して取り組むべきだと学んだ」「世界が直面する問題に関して、自分の意見を違う背景を持った人と共有することができて楽しかった」「機会があれば来年も参加したい」などの感想が寄せられ、参加者にとって実りのある一日になったことを嬉しく思います。最後になりましたが、世界各地の中高生やゲストの皆様をはじめ、このサミットを成功へ導いてくださったすべての方々へ深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。（文責 渋谷教育学園渋谷中学高等学校 高2 谷田そよ）

同一校のチームの参加とする。ただし、英会話スクールなど高等学校以外の団体は例外とする。

第18回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 HPDU Competition 2024 実施要領

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟(HPDU of Japan)
後援：文部科学省 (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)
ブリティッシュ・カウンシル (British Council)
カナダ大使館 (The Embassy of Canada to Japan)
一般社団法人 日本英語交流連盟 (The English-Speaking Union of Japan)

特別協賛：有限責任 あずさ監査法人 (KPMG AZSA LLC)

協賛：公益財団法人 日本英語検定協会 (Eiken Foundation of Japan)

iae グローバルジャパン株式会社 (iae GLOBAL JAPAN, Inc)

株式会社トモノカイ (Tomonokai Co.,Ltd.)

メディアパートナー：読売新聞社 (THE YOMIURI SHIMBUN)

協力：エイムネクスト株式会社 (AIMNEXT Inc)

キャノン株式会社 (CANON INC.)

キャノンマーケティングジャパン株式会社 (Canon Marketing Japan Inc.)

公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 (Japan Philharmonic Orchestra)

1 趣 旨

全国の高校生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を養う。また、参加者間の交流を図り、共に学び合う関係を作る。

2 日 時・場 所

2024年3月22日(金) 15:00 ~ 24日(日) 17:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

※3月22日は、センター棟4 1 7にて午後3時~3時20分に集合

3 内 容

- World Schools Debating Championships(WSDC) Style (但し本大会用に修正を加えたもの)による英語ディベート大会
予選は4試合行われ、2、3、4試合目はパワーベアリングとなる。順位は、各チームの勝ち数と得点ポイントで決定し、ベスト8チームによる決勝トーナメントとベスト9~16チームによるトーナメント2を実施する。
- パラメンタリーディベートのスキル向上のためのワークショップ及びモデルディベート
- 協賛企業による「今必要とされる人材」についての等のプレゼンテーション

4 参加資格

日本に住所がある高校に在学している学生(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)のうち、日本高校生パラメンタリーディベート連盟に公式認定された**各都道府県大会に参加**して出場権を獲得した者、または本連盟より特別に出場権を与えられた者(同一都道府県内の出場希望校が一枚であった場合など)。

11:05 準決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分)

11:40 準決勝 試合開始

12:20 昼食 (カフェテリア「ふじ」にて)

13:30 決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分)

プレゼンテーション④ 未定

14:00 決勝 試合開始

15:30 閉会式 表彰

16:30 解散 (17時、会場完全撤収)

7 試合形式

【対戦組み合わせについて】

第1試合の対戦組み合わせは事前にランダムで決める。予選2~4試合目はパワーベアリングによって決める。予選4試合の勝敗数、そして勝敗数が同じチーム間ではスピーカーズ・スコアの総得点で、予選の順位を決定する。上位8チームが決勝トーナメントに進出し、準々決勝では予選の成績が良かった順に1~8の番号を振り、以下の通りで対戦を行う。トーナメント2の対戦組み合わせもこれと同様に行う。

準々決勝 A : team 1 対 team 8

準々決勝 B : team 2 対 team 7

準々決勝 C : team 3 対 team 6

準々決勝 D : team 4 対 team 5

【試合開始前の準備時間について】

論題は、予選では試合開始の20分前に発表される。論題発表後以降は、ディベーターはチームメイト

以外の人との相談は禁止とする(顧問との相談も禁止)。

決勝トーナメントでは、準備時間は25分とする。高価な道具を用意できたかどうかによって勝敗が左右されることがないように、論題発表以降は、ストップウォッチ、電子辞書専用機を除いた電子機器の使用は禁止する。

【スピーチの順番および時間】

試合の流れ 準備時間 第一日目20分、第二日目25分

1) PM (Prime Minister) 【5分】

2) LO (Leader of Opposition) 【5分】

3) MG (Member of Government) 【5分】

4) MO (Member of Opposition) 【5分】

5) Government Whip 【5分】

6) Opposition Whip 【5分】

7) Opposition Reply 【4分】

8) Government Reply 【4分】

*決勝のみ1)~6)のSpeechを各7分とします。

上記の1)~6)のSpeechの時間は各5分間、ただし**決勝ラウンドのみ各7分間**。7)と8)のReply Speechは4分間。1)~6)のSpeechの最初と最後の30秒間(決勝戦のみ1分間)を除いた時間では、対戦相手のチームはPoint of Information(質問、反論、コメント)を行うことができ、Point of Informationがスピーカーから許可された場合、最長で15秒間話すことができる。

Reply Speechは、チームの1人目または、2人目のスピーカーのいずれかが行い、Whip SpeakerがReply Speechを行うことはできない。

5 参加費

1チームにつき20,000円(選手及び引率者の大会中の宿泊費および食費を含みます。尚、宿泊費と食費に関しまして、スポンサー様のご支援のもと半額をHPDUが負担いたします。)

6 大会の日程 (随時、協賛企業様によるプレゼンテーションが入ります。また、日程は大会の進行状況等により変更される可能性があります。)

第1日目 開会式・モデルディベート

15:00 受付・入場(センター棟4 1 7にて)

15:30 開会式

16:20 プレゼンテーション① 公益財団法人日本英語検定協会

引率者ミーティング(センター棟4 1 6にて)

17:00 宿泊施設チェックイン、夕食(センター棟2階カフェテリア「ふじ」にて)

19:00 モデルディベート(センター棟4 1 7にて)

プレゼンテーション② iaeグローバルジャパン株式会社

21:00 伝達後解散

第2日目 予選

7:00 朝食(カフェテリア「ふじ」にて)

8:45 第1試合の対戦表・論題発表(準備時間20分)

9:10 第1試合開始(試合後ジャッジによる勝敗の説明 約30分)

10:50 第2試合の対戦表・論題発表(準備時間20分)

11:15 第2試合開始(試合後ジャッジによる勝敗の説明)

12:35 昼食(カフェテリア「ふじ」にて)

14:00 第3試合の対戦表・論題発表(準備時間20分)

14:25 第3試合開始(試合後ジャッジによる勝敗の説明 約30分)

16:05 第4試合の対戦表・論題発表(準備時間20分)

16:30 第4試合開始(試合後勝敗の発表なしのアドバイス 約20分)

18:00 夕食(カフェテリア「ふじ」にて)

19:30 ワークショップ(センター棟4 1 7にて)

プレゼンテーション③ 株式会社トモノカイ

21:00 伝達後解散

第3日目 決勝トーナメント、トーナメント2(ベスト9~16のチームによるトーナメント)

7:00 朝食(カフェテリア「ふじ」にて)

9:00 集合、点呼

9:10 トーナメント出場チーム発表

9:30 準々決勝 対戦表・論題発表(準備時間25分)

10:00 準々決勝 試合開始、ワークショップ

【スピーカーの役割】

・各チーム最初の2人のスピーカーは、それぞれ肯定または否定側の議論を示し、また相手チームの議論に必要な反論をする。

・3人目のWhip speakerは、主に相手チームの議論への反論、そして反論された内容を受けての議論の立て直し、及び論点の整理を行う。より詳しいやり方については、HPDUのホームページの「参考資料」内「Whipを極める」を参考にしてください。

・Reply Speechでは、どうして自分たちのチームがその試合で勝利したのか、いくつかの争点に絞って説明を行う。

8 評価方法【勝敗について】

・各試合では、勝敗と各スピーカーの個人得点が決められる。

・Constructive Speech (Reply Speech 以外)では、右の表で

示すとおり、75を基準に上下

8点の幅で各スピーチに得点が

与えられ、Reply speechで

は、37.5を基準に上下4点の

幅で得点が与えられる。

・予選ではジャッジが試合終了後に口頭で試合の勝敗とその理由を説明する。

9 その他の注意事項

・当日は、顧問の方、もしくは保護者の方等、緊急時に対応していただける成人の方がご引率ください。引率をつけることは出場条件であり、引率の方の体調が良くない場合は、代わりの方をお願いいたします。

・本大会では、他のパラメンタリーディベートの大会と同様、論題発表後の準備時間として試合中にチームのパートナー以外の者と口頭、メモ、その他の電子的な手段で相談することを禁じます。

・ディベーターは準備時間内にチーム内の者以外と相談することはできません。

・ディベーターは準備時間内そして試合中に、電子辞書を除いた電子機器(例 インターネット接続機能を持ったタブレット・コンピューター等)を使用することはできません。

・ディベーターはストップウォッチかタイマーを持参してください。試合中にストップウォッチとして携帯電話を使用することも禁じます。上記のように電子辞書の使用は可能ですが、タブレット型端末(GPadなど)の辞書アプリの利用は禁止します。

・スピーチ中のチームメイトにメモ等でコミュニケーションをはかることを禁じます。

・Point of Order(試合中に対戦相手のルール違反を指摘する行為)は禁止します。ルール違反があった場合、ジャッジが判断をするものとします。試合進行上支障をきたすルール違反があった場合、ジャッジが適切な処置をします。

・Constructive Speechに対してPoint of Information(POI)を行う場合「Point」「Point of Information」といった表現でPOIによる発言の許可をスピーカーに求めてください。5分間の最初と最後の30秒間(決勝は7分間なので最初と最後の1分間)はPOI不可。POIにより発言を許可された者は、15秒間だけ発言を許されます。Reply Speechに対してはPOI不可。

・相手チームの引率者と選手自身の承諾なしに、他校の生徒のスピーチを録音、撮影、録画することは禁止です。

・HPDUの記録担当が撮影したのものに関しては、後日、HPDUや大会の支援団体のホームページ、後援・共

備・協力団体への報告書、HPDUや支援団体についての説明会や講演及び記事や書籍で使用する場合があります。こちらに同意していただくことが、本大会の参加条件になっています。

- ・大会の様子は本大会のメディアパートナーである読売新聞社が取材し、同社の媒体で紹介される予定であり、写真撮影も行うことをご了承ください。読売新聞の記事に関してもHPDUや支援団体の報告書などで使用することがあります。こちらに同意していただくことも本大会の参加条件となっています。その他、主催者が取材を許可したメディアについても同様です。ただし、大会そのものではなく、特定の参加校や個人の取材については、対戦校の引率者と選手の同意を要します。
- ・急な発熱などにより選手を変更せざるをえない場合は、開会式の開始までに連絡してください。代わりの選手が見つからず、2名以下での参加となってしまった場合は、個人賞の対象にはなりますが、優勝トーナメントには出場できません。

中川智皓 (大阪府立大学工学研究科機械工学分野准教授、PDA 代表)

西日本代表 西山哲郎 (静岡聖光学院中学校・高等学校校長補佐)

四国・九州代表 加藤 彰 (九州大学 非常勤講師/学術研究者)

チーフコーチ 小野暢思 (合同会社 Tokyo Debate Academy 代表)

- ・2014年 ESUJ 大学対抗ディベート大会優勝、2016年 ESUJ 社会人英語ディベート大会優勝、2017年第20回記念 ESUJ 英語ディベート大会優勝など、国内外の各種パラメンタリーディベート大会で優勝35回、ベストスピーカー賞28回・2015年パラメンタリーディベート世界大会 (World Universities Debating Championship) ESL部門 Quarter Finalist、EFL部門 4th Best Speaker・各種セミナーの講師を務める。

※HPDUの大会は全てボランティアにより運営されています。

- 1 0 各種教育奨励賞 (実施状況により若干の変更の可能性があります。)
- 1) 文部科学大臣賞：優勝チームに授与。
 - 2) あずさ監査法人賞：参加者全員にパラメンタリーディベート練習用テキストを贈呈。
 - 3) 日本英語検定協会賞：ベストスピーカー賞第1位受賞者、決勝トーナメント出場校に図書カードを贈呈。
 - 4) 日本フィルハーモニー交響楽団賞：上位4チームにコンサートチケットと音楽CDを贈呈。
 - 5) キヤノン賞：優勝チームにキヤノンインスタントカメラプリンター(GNSPiC ZV-223-PK)とキヤノン用ZINKフォトペーパーを贈呈。
 - 6) キヤノンマーケティングジャパン賞：準優勝チームに贈呈。(賞品は検討中)
- 1 1 第13回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 (HPDU 杯) 実行委員および役員
- | | |
|--------|--|
| 委員長 | 北原隆志 (渋谷教育学園渋谷中学高等学校教諭、HPDU 理事長、ESUJ 特別参与) |
| 実行委員 | 小林良裕 (豊島岡女子学園中学高等学校教諭、東京学芸大学大学院連合学校教育学研究所博士課程在籍、HPDU 理事、ESUJ 特別参与) |
| | 浜野清澄 (さいたま市立浦和高等学校教諭、HPDU 理事) |
| | 天海揚介 (OBOG 代表、HPDU 理事) |
| | 西崎真広 (帝京大学中学校・高等学校教諭、HPDU 理事) |
| | 須田智之 (筑波大学附属駒場中・高等学校教諭、HPDU 理事) |
| | 河野 周 (聖光学院中学校高等学校教諭、HPDU 理事、ESUJ 特別参与) |
| | 土屋紀子 (渋谷教育学園渋谷中学高等学校講師) |
| | Melvin Lai (東洋英和女学院 教諭) |
| 名誉顧問 | 明石 康 (公益財団法人 国立京都国際会館理事長、元 ESUJ 副会長、元国連事務次長) |
| | 沼田貞昭 (ESUJ 名誉会長、元駐カナダ大使) |
| 監事 | 油井直次 (元公益財団法人 日本英語検定協会会長) |
| 顧問 | 加藤一郎 (千葉大学客員教授、元全農代表理事専務) |
| | 新庄一郎 (弁護士、元検察庁検事正) |
| | 酒井弘行 (公認会計士、元 KPMG ジャパン日本代表、元あずさ監査法人理事長) |
| | 下野雅承 (元日本 IBM 社長) |
| | 讃井暢子 (元一般社団法人 日本経済団体連合会常務理事) |
| 大会主顧問 | 岡田真樹子 (ESUJ 副会長、元山梨英和大学教授) |
| 大会特別顧問 | 綾部 功 (東海大学文学部英語文化コミュニケーション学科准教授、ESUJ 理事) |



True transformation is always human.

進化するデジタルテクノロジー、複雑化するビジネスリスク、そして変容する企業価値基準。

KPMGは、不透明な時代のなかで変革をリードする「人」に寄り添い、
豊富な知見と専門性で、企業の成長を支えます。

KPMG. Make the Difference.



KPMG FAS Deal Advisory, M&A シニアマネジャー 徳田 華子
KPMG税理士法人 FinTech パートナー 池田 望
あずさ監査法人 Digital Innovation & Assurance シニアマネジャー 岩藤 真美
KPMGコンサルティング Financial Services アソシエイトパートナー Paul Landerman

KPMGジャパン

有限責任あずさ監査法人 KPMG税理士法人 KPMGコンサルティング株式会社 株式会社 KPMG FAS KPMGあずさサステナビリティ株式会社
KPMGヘルスケアジャパン株式会社 株式会社 KPMG Ignition Tokyo 株式会社 KPMGアドバイザリーライトハウス

kpmg.com/jp

© 2024 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved.

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.



HPDU
OF JAPAN

